

多摩市観光まちづくり基本方針（素案）

目次

第1章 はじめに	3
第2章 多摩市観光まちづくり基本方針の考え方	4
1 方針策定の趣旨・目的	4
2 多摩市観光まちづくり基本方針における「観光」の定義	4
3 国及び都の動向	4
4 多摩市観光・交流まちづくりグランドデザインとの関係	5
5 本方針の位置づけ ~第六次多摩市総合計画との関連性~	5
第3章 多摩市観光の目指す姿・取組み方針	6
1 多摩市観光の目指す姿	6
2 取組み方針	6
第4章 現状と取組み方針を実現させるための課題	9
1 多摩市の観光の特徴	9
(1) 良好的な都市基盤と快適な環境の共存	9
(2) 多様な主体によるイベントを起点とした賑わいと拠点の特色	9
(3) 豊かなまどりと歴史文化資源	10
(4) 東京 2020 大会のレガシーの観光資源としての活用	10
(5) 宿泊環境の現状	10
(6) 広域交通インフラ整備による潜在力の拡大	10
(7) 観光を取り巻く関係性の構築	10
2 多摩市で実施されるイベント	11
3 新型コロナウイルス感染症による影響と今後の考え方	12
4 多摩市の観光まちづくりにおける課題	12
(1) 観光資源の活用と磨き上げ	12
(2) ターゲット層ごとの誘客戦略の強化と多様化	12
(3) 観光滞在の時間の延伸と回遊性向上への取組み	12
(4) 観光推進体制の構築と持続可能性の確保	13
第5章 おわりに	14
【参考資料】	15

第1章 はじめに

後日記載

第2章 多摩市観光まちづくり基本方針の考え方

1 方針策定の趣旨・目的

多摩市は名所・旧跡をめぐる一過性の観光を目的とする、「従来型」の観光地ではありません。しかし、そうした地域においても、少子化・高齢化が進行する中で地域の活力とにぎわいを持続的に確保するための手段として、都市における体験やコト消費、地域との交流といった「都市型」の観光が果たしうる役割があります。

多摩市は、豊かなみどりや自然、文化・歴史的資源、都心への交通利便性の高さ、歩車分離による街づくりといったハード面に加え、市民や市民団体によるイベントや地域活動、国内外からの集客力のある大型観光施設や周辺自治体からも利用者が訪れる商業施設、その他個性溢れる民間施設による取組みや魅力発信、商店街や飲食店などの地域の商業活動、多摩市を大いに参考に描かれたアニメ作品といったコンテンツなど、ソフト面においても幅広い観光資源に恵まれています。

とりわけ、コロナ禍を経て人々の価値観やライフスタイルが大きく変化し、観光に求められる役割が多様化する中で、本市の持つ豊かなみどりと都市の利便性が両立する特徴を活かし、観光をきっかけとした来街者の定住促進や交流人口・関係人口の拡大といった可能性が期待されます。

以上を踏まえ、まちの活力と賑わいの創出に向け、企業、大学、市民団体など多様な主体と連携し、その活動を支援しながら推進する多摩市の観光施策の方向性を定めるため、今後5年間の基本方針を策定するものです。

2 多摩市観光まちづくり基本方針における「観光」の定義

本方針において「観光」とは、従来型の観光にとどまらず、市民や市外から訪れる人々が、多摩市のみどり・文化・人とのふれあいなどを通じてその魅力を楽しみ、街を訪れ、消費し、再び訪れたくなるような体験をする「来訪・消費・再訪」の循環的な関係性が生み出される活動を指します。

3 国及び都の動向

国は、観光立国推進基本法（平成18年法律第117号）を策定し、少子化・高齢化や本格的な国際交流の進展を視野に、観光立国の実現を「21世紀の我が国経済社会の発展のために不可欠な重要課題」と位置づけました。

また、東京都は、観光を「多くの産業に経済波及効果をもたらし、飛躍的な成功が見込まれる産業」と位置付け、「PRIME観光都市・東京 東京都観光産業振興実行プラン」を策定し、観光振興に取組んでいます。

特に多摩地域においては、地域の多様な主体が連携した多摩観光推進協議会設立の支援や、東京観光財団に設置した「地域支援窓口」を通じた観光協会への支援、立川駅への

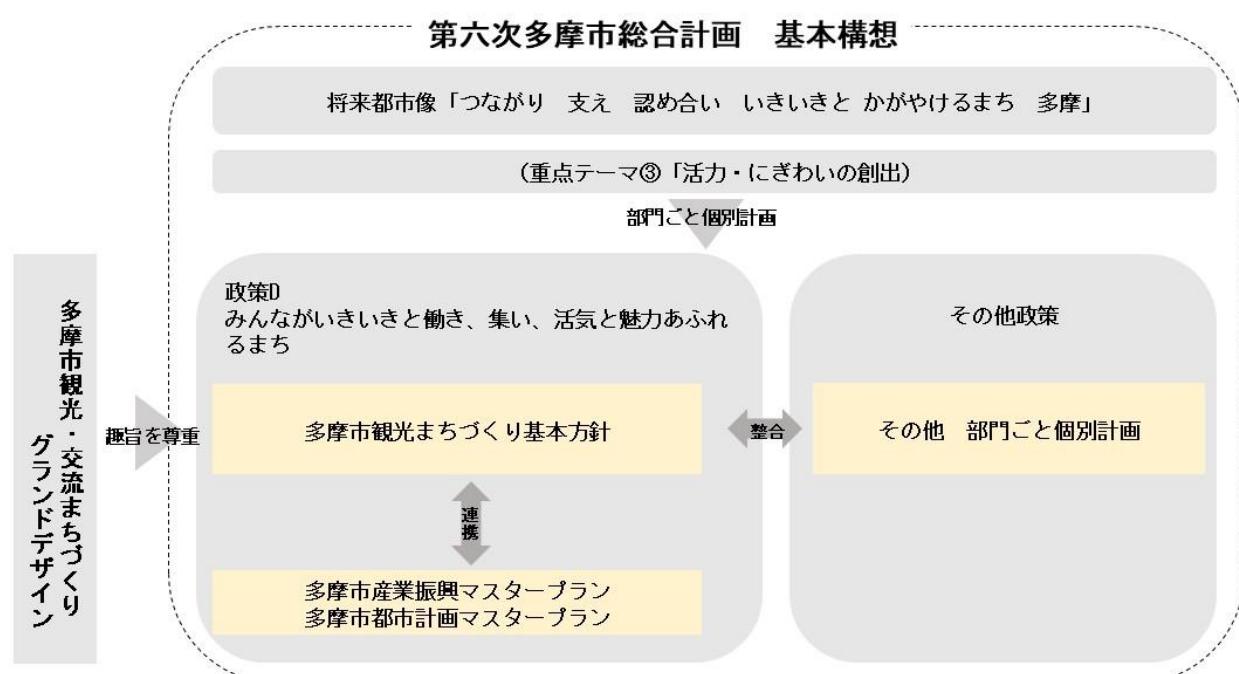
東京観光情報センター多摩の設置など、多摩・島しょ地域の観光振興を進めています。

4 多摩市観光・交流まちづくりグランドデザインとの関係

本市は、産学官民が連携して多摩市の魅力向上や来街者の増加等を目指すため、平成31年に「多摩市観光まちづくり交流協議会」を設立し、同協議会から「多摩市観光・交流まちづくりグランドデザイン」と題する提言を受けました。

本方針は、多様な主体による知見が生かされた提言の趣旨を尊重し、策定するものです。

5 本方針の位置づけ～第六次多摩市総合計画との関連性～



第3章 多摩市観光の目指す姿・取組み方針

1 多摩市観光の目指す姿

「多摩市観光・交流まちづくりグランドデザイン」の趣旨を踏まえ、本方針では、観光を通じて多摩市が目指す姿を「発見と交流が広がり、多様な価値が調和するまちの実現」と定めます。

これは、多摩市の観光資源や様々な主体が展開するイベントなどを通じて来街者や地域住民、まちづくりの担い手などとの交流が生まれることにより、多様な価値が調和し、地域経済の活性化やコミュニティの醸成といった「まちづくり」に発展していくことを目指すものです。

そのために、観光を通じて市民や企業等がまちづくりを担い、互いの交流が拡大し、まちの活力と賑わいの創出につながる「観光まちづくり」の仕組みづくりに取組みます。

【多摩市の観光まちづくり】

観光を通じ、市民、地域団体、大学、企業、行政の交流拡大

コミュニティと地域経済の活性化

まちの活力と賑わいの創出

2 取組み方針

方針1 多摩市ならではの観光資源の発掘と磨き上げ

都内随一の公園面積と豊かなみどりのある環境、文化・歴史的施設、東京2020大会のレガシー、プロスポーツ、アニメやキャラクター、ロケ地、イベント、都市インフラなど、多摩市にある多様な資源を観光資源として捉えます。多摩市観光まちづくり交流協議会で推進している「多摩市食プロジェクト」のほか、市内の観光施設や商業施設、商店街や飲食店、イベント事業者、大学などの民間主体と連携・協働し、外部の視点や新しい発想を取り入れることで、多摩市の観光を担う人材を発掘するとともに、市民にとってシビックプライドの醸成に繋がり、訪れる人にとって来訪・再訪したくなる、新たな価値を磨き上げていきます。

コラム（後日記載）

方針2 来訪者層ごとの誘客戦略と効果的な情報発信

近隣住民、全国からの来訪者、インバウンドといった多層的な対象に応じた施策を展開します。近隣住民には名物づくりやリピーター施策を、全国からはサンリオピューロランドやアニメ・キャラクター等を活用した誘客を進めます。また、インバウンドについても、文化体験や生活空間を魅力と感じる特性を意識し、今後の取組みに反映させていきます。そして、これらの取組みを効果的に伝えるため、市内外・海外に向けて、多様な媒体と手法を組み合わせて情報を発信します。

コラム（後日記載）

方針3 滞在時間の延伸と満足度向上

観光資源を活用したまち歩き企画や、休憩スポット整備、ナイトタイム観光を意識したイベント展開などを通じて、来訪者の滞在時間を延ばし、観光の質と満足度を高めます。

コラム（後日記載）

方針4 観光を推進する中核的な組織の設立に向けた検討

観光施策を持続的に展開するため、観光を推進する中核的な組織（（仮称）観光協会）の設立を検討します。組織の設立により、市内の様々な観光資源や地域事業者間をつなぎながら、機動的で自由度が高い施策の展開を進め、機を捉えた観光振興を展開していくことが可能となります。

市との役割分担として、市は施策立案や運営支援を担う一方、（仮称）観光協会は具体的な企画立案・実施を担います。本市では市民、商店会、事業者などがそれぞれの活動目的のために、地域の魅力発信や来訪・交流の契機となる取組みを行っていますが、（仮称）観光協会にはこうした取組が「観光」の促進につながるよう、支援や調整を行う役割が期待されます。

また、市内にはエリアマネジメント団体が設立されています。市域全体への来訪・消費・再訪を目的とする観光協会と、特定の地域において価値向上に取り組むエリアマネジメント団体が、それぞれの役割を果たしつつ連携することで、相互の取組が相乗的な効果を生み出すことを目指します。

コラム（後日記載）

第4章 現状と取組み方針を実現させるための課題

1 多摩市の観光の特徴

(1) 良好的な都市基盤と快適な環境の共存

多摩市は、東京都心からのアクセスに優れた立地にありながら、公園や緑地が豊富に整備されており、良好な都市基盤と快適な環境が共存するまちとして知られています。特に、全長約41kmにおよぶ自転車歩行者専用道路は、散策やウォーキングに適した環境として親しまれており、安全安心な移動環境を生かした自動走行モビリティの技術実証など、先進的な取組みも行われています。

(2) 多様な主体によるイベントを起点とした賑わいと拠点の特色

市内各拠点において特徴的なイベント等が催されており、そこにしかない魅力で多くの人を惹きつけています。

多摩センターエリア

サンリオピューロランドやパルテノン多摩、多摩中央公園、多摩中央図書館、都立埋蔵文化財センターをはじめとする多数の文化・観光施設等が集中しており、四季折々のイベントがペデストリアンデッキなど公共空間を活用して展開されています。

聖蹟桜ヶ丘エリア

商店会やショッピングセンター・百貨店による魅力的な事業や催事、せいせきカワマチで催されるオリジナリティ溢れるイベント、アニメ等のコンテンツにちなんだまち歩きなど、様々な担い手が地域資源と物語性を融合させた観光を形成しています。

永山エリア

商業施設のひろばや公園等での市民主体のイベントや、多摩東公園・陸上競技場におけるスポーツイベントが行われているほか、南多摩尾根幹線の整備に伴う今後の地域活性化と連動した観光活用が期待されています。

拠点ごとの来街者数

KDDI Location Analyzer を活用した各拠点地区ごとの推計来街者数（1か月あたり）

（単位：人）

拠点	令和4年度	令和5年度	令和6年度
多摩センター駅周辺	898,570	944,076	956,050
聖蹟桜ヶ丘駅周辺	637,628	668,618	659,998
永山駅周辺	480,439	500,140	484,423

※対象：平日の来街者+勤務者

（3）豊かなみどりと歴史文化資源

多摩よこやまの道や街路樹の美しい変化、日本一長い自転車歩行者専用道路を活かした散策ルートなど、安全に歩きやすく、みどりと都市が調和する景観も本市の大きな魅力です。また、旧多摩聖蹟記念館や古民家など、地域の歴史を伝える施設も点在しており、歴史文化に親しむこともできます。

（4）東京 2020 大会のレガシーの観光資源としての活用

東京 2020 大会を契機として、本市がアイスランドのホストタウンを務めたことを契機に「アイスランドウィーク」や「多摩市アイスランド風まちバル」をはじめとした事業を駐日アイスランド大使館と連携して開催しているほか、レイキャビク市との友好関係構築に関する覚書に基づく取組みなどによって、アイスランドとの交流やアイスランドの文化等に触れることができる機会を創出しています。

また、市内が自転車競技ロードレースのコースとなり、大会後もそのコースを使用した自転車ロードレースが行われるなど、沿道の各市が連携して活用に取組んでいます。

（5）宿泊環境の現状

市内では複数のホテル施設の閉館が相次いでおり、交通アクセスの良さを活かした多摩地域の観光拠点となる宿泊施設が望まれます。

（6）広域交通インフラ整備による潜在力の拡大

南多摩尾根幹線の全線 4 車線化整備やリニア中央新幹線神奈川県駅（仮称）の開業、多摩都市モノレールの町田方面等の延伸といった広域的な交通インフラ整備も、本市の観光の潜在力をさらに高める可能性を秘めています。今後の観光施策の検討にあたっては、こうした変化も意識しながら取組む必要があります。

（7）観光を取り巻く関係性の構築

多摩市では、観光まちづくりを市民とともに進めていく取組みが芽吹いており、さまざまな市民団体が観光資源の発掘や発信に貢献しています。たとえば、多摩グリーンボランティア森木会による自然環境保全活動、せいせき観光まちづくり会議による地域資源を活かした企画、たまロケーションサービスによるロケ撮影支援、永どんサポートーズクラブによる地域 PR など、主体的で多様な活動が展開されています。

また、市内及び近隣には多くの大学が立地しており、学生がまちづくりに積極的に参画する風土が育まれています。学生が企画を考案し南多摩五市をフィールドに企業などの力を借りて実証する「タマリズム」など企業や大学、市民団体、市が連携することで、地域の魅力を引き出し、高める取組みが進んでおり、今後は（仮称）観光協会の設立やエリアマネジメント団体等の中間支援組織との連携を通じて、より持続可能な観光まちづくり

りの体制を構築していくことが重要です。

2 多摩市で実施されるイベント

多摩市では、年間を通じて多くのイベントが開催されています。

下表は令和6年に市が主催または後援した観光イベントの一部を抜粋したのですが、この他にも、市民主体の様々な取組みが行われており、多摩市ならではの工夫と地域力が表れています。

春	春には、花や新緑の季節に、人が集う季節の催しが多く開催されます。 <ul style="list-style-type: none">・聖蹟桜ヶ丘及び多摩センター「桜まつり」・せいせきカワマチオープンデイ・せいせきさくらがおかメリーゴーランド・BEER Picnic・東京多摩ファミリーフェスタ・せいせきの丘プロジェクト（せいせき春のビール祭り）・多摩センタースプリングフェスタ・ガーデンシティ多摩センターこどもまつり、
夏	夏には、賑わいや夕涼みを味わえるイベントが催されます。 <ul style="list-style-type: none">・せいせき朝顔市・多摩センター夏まつり・アイスランドウィーク・たまこどもフェス・多摩ニュータウン野外コンサート
秋	秋には、多様な文化的なイベントが展開されます。 <ul style="list-style-type: none">・永山フェスティバル・映画祭 TAMA CINEMA FORUM・ハロウィン in 多摩センター・多摩ランタンフェスティバル・せいせき音フェス・快汗スポーツDAY・TAMATAMA フェスティバル・せいせきの丘プロジェクト せいせき秋のビール祭り・多摩くらふとフェア
冬	冬には、寒さの中でもまちに彩りと温かさをもたらす催しが行われます。 <ul style="list-style-type: none">・多摩センターイルミネーション・ラスカル子ども映画祭・せいせきハートフルコンサート

3 新型コロナウイルス感染症による影響と今後の考え方

新型コロナウイルス感染症の拡大は、多摩市の観光にも大きな影響を及ぼしました。とりわけ、インバウンド需要の急減やイベントの中止・縮小、地域内の移動制限などにより、観光関連事業者や来街者数に大きな打撃がありました。かつてはアジア圏からの団体旅行や貸し切りバスによる訪問が主流であったインバウンド観光も、現在では個人旅行や長期滞在志向への転換が進んでいます。

4 多摩市の観光まちづくりにおける課題

（1）観光資源の活用と磨き上げ

多摩市には、地域イベントやコンテンツ、食など、観光資源としての可能性を秘めた要素が数多くあります。これらの要素を観光資源として活用するためには、既存の観光施策に新たな視点を加えて発掘し、さらに魅力的に磨き上げていくことが重要です。市民や事業者等との連携を強化し、地域資源を活かした観光施策を展開することで、観光地としての魅力を向上させることができます。特に、「食プロジェクト」のように他の自治体には無い多摩市独自の要素を活用した取組みは、多摩市の観光にさらなる魅力を加える可能性を秘めています。

あわせて、観光を推進する上では、観光資源を活かす担い手となる人材の発掘と育成も重要な課題です。地域の若者や事業者、大学など多様な主体が関わることで、新たな発想や外部の視点を取り入れ、多摩市ならではの観光を育てていくことが求められています。

（2）ターゲット層ごとの誘客戦略の強化と多様化

多摩市には、近隣住民をはじめ、全国各地からの来訪者や海外からの訪問者まで、多様な層が訪れています。こうした幅広い来訪者層に対して、それぞれの属性や関心に応じた情報発信を行い、来訪のきっかけや市内での回遊につなげていくことが課題です。そのためには、市だけでなく、様々な観光の担い手が連携して情報発信を行う体制を整えることが求められます。

（3）観光滞在の時間の延伸と回遊性向上への取組み

来訪者の滞在時間を延ばし、市内での回遊を促すことは、観光の効果を高めるために重要な課題です。宿泊や来訪者の満足度が向上するような回遊施策により、滞在時間が増えることから、再訪を促す効果が期待されます。また、来訪者が地域内を回遊することで、観光施設や商業施設、飲食店などへの訪問が増え、消費の拡大による地域経済の活性化にも寄与します。こうした観光の循環を生み出すために、宿泊施設の立地促進のほか、観光資源を活用したまち歩き企画や休憩スポットの整備、ナイトタイムイベントの導入など、回遊や滞在時間を延ばすための施策が期待されます。

（4）観光推進体制の構築と持続可能性の確保

多摩市観光まちづくり交流協議会からは、グランドデザインの実現に向け、常勤メンバーのいる中核的な組織づくりを期待することが提示されました。観光施策を持続的かつ効果的に展開するためには、行政だけでなく、地域の事業者や市民団体など多様な主体と連携し、施策を継続的に推進できる体制が重要です。また、前述したとおり機動的な施策展開には制約があるほか、国や都の観光を担う団体を対象とした補助金を活用できないなどの課題があります。このため、観光資源や地域特性を活かした自由度の高い施策を進める中間支援組織の整備が必要な状況にあります。

第5章 おわりに

多摩市における観光まちづくりは、地域に眠る多様な資源を活かしながら、訪れる人々に新たな価値や体験を提供し、地域内外との交流を深めていく取組みです。これまで、市民団体や大学、事業者、行政などが連携し、観光や地域振興に向けた多様な実践を積み重ねてきました。本方針は、そうした土壤をさらに広げ、多摩市が有するみどりや文化、コンテンツなどを「まちの魅力」として再構築し、持続可能な形での観光施策を推進するための指針となるものです。

第4章で述べたように、多摩市は観光資源が集積している一方で、宿泊環境、受け入れ体制の強化、戦略的な情報発信など、対応すべき課題も抱えています。これらを克服し、まち全体の活力と魅力を高めていくためには、観光を担う事業者や市民との協働を前提とした観光推進体制の構築が不可欠です。

本方針では、「発見と交流が広がり、多様な価値が調和するまちの実現」を掲げ、観光・交流・まちづくりの融合を通じて、多様な価値が調和し、地域経済の活性化やコミュニティの醸成といった「まちづくり」に発展していくことを目指します。そのために、「多摩市ならではの観光資源の発掘と磨き上げ」、「来訪者層ごとの誘客戦略と効果的な情報発信」、「滞在時間の延伸と満足度向上」、「観光を推進する中核的な組織の設立に向けた検討」という4つの方針を定めています。

本市の観光まちづくりは、まちの賑わいと活力の創出に向け、来訪・滞在・再訪を促すとともに、シビックプライドの醸成に寄与し、多くの市民がかかわり取り組んでいくことから、本市で掲げている健幸まちづくりにも資するものです。市民・事業者・大学・行政といった多様な主体の連携のもと、施策の立案と推進に向けて取組みを進めていきます。

【参考資料】

「多摩市観光・交流まちづくりグランドデザイン」の内容

多摩市観光の目指す姿	“お洒落”で“贅沢な”活力ある多摩観光の中核的役割を目指して ～“観光”と“交流”と“まちづくり”の融合～
多摩市観光の基本的な姿勢	①民間活力と市民力を活かして観光・交流を持続的に推進する。 ②市民協働・地域経営のノウハウを活かして多様な主体による観光・交流を推進する。 ③シティセールスと一体となった観光振興を推進する。ブランディングや認知度の向上のため、多様なツールを用いて魅力を発信する。 ④観光の担い手や観光客など観光にかかわるすべての人々が継続的に関わることで、結果としてふるさと意識を醸成し、定住促進へつなげる。
グランドデザインの推進に向けた行政への要望	観光マーケティングに即した行政による観光実態調査・意識調査の実施 マーケティングを反映した観光振興に関する基本方針の策定 観光・交流まちづくりを進める中核的な組織の推進力向上に向けた継続的な取り組みの支援